



Organization for Clinical Rehabilitation with Advanced Science and Effective Education

発行：NPO 法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED / 年 4 回発行 / 第 3 号 (2006 年 10 月 20 日発行)
〒 560-0054 大阪府豊中市桜の町 3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL 06-6857-9640 URL : www.craseed.org

診療報酬改定 リハビリ制限撤廃運動

CRASEED 代表 道免 和久

設立して間もない CRASEED は、当面、地道に活動するつもりでした。ところが、今回の活動により、あっという間に、全国にその名が知れ渡ることになりました。平成 18 年度診療報酬改定に関する報道は、ホームページ (craseed.net) に掲載してありますので、ここでは一般報道では知られていない秘話を、皆様にお話します。

リハビリ打ち切り制度が現実化する中、3 月頃から小山哲男理事が、報道発表資料を作成し、記者クラブ等に送付しました。報道というものは、待っていたら取り上げてくれるものではなく、それなりの問題提起が必要です。その結果、最初に産経新聞が報道してくれました。それでも国民のほとんどが知らない中、4 月初旬に免疫学者で能作家の多田富雄先生の「リハビリ中止は死の宣告」という投稿が朝日新聞に掲載されました。その後 NHK「つながるテレビ@ヒューマン」で、多田先生のリハビリの姿と私のコメントが放映されました。多田先生とは面識はありませんでしたが、番組がきっかけでメールのやり取りが始まりました。

このままでは、あたりまえのリハビリ医療ができなくなる、という危機感から、あれこれ考えました。「リハビリ

りは人間の尊厳の回復」という多田先生の言葉は、当事者の声だけに身にしみるものがありました。しかし、驚いたことに多くの専門家は沈黙。理由は、診療報酬改定への(経営)対策に手一杯など。確かに皆大変なのですが、この問題ばかりは、患者さんが直接の実害を被ります。外来リハビリだけではなく、改善するはずの入院患者さんにもリハビリを受けられなくなります。「必要な人に必要な医療を」という医療の根本が崩壊する大問題にもかかわらず、結局、組織も個人も動かず。

ならば、多田先生や患者会の人達と一緒に署名活動をやろう、と考えたわけです。署名活動なんて誰もやったことがない中で、CRASEED 理事会でもいろいろ議論がありました。ところが、署名を始めようと思った頃、多田先生からメールが来ました。「もはや、これまで。・・・遠くから応援しています」と。打ち切り問題のストレスで体調を壊した多田先生が緊急入院されたのでした。署名活動開始まであと 10 日。何も準備ができず、私自身もショックで寝込む中、CRASEED の仲間達が驚くべきチームワークを発揮してくれました。署名活動に必要な道路使用許可、署名グッズのレンタル、人員の動員等々を全てやってくれたのです。その結果、5 月 14 日梅田の街頭に立つことができました。当日はマスコミ各社が駆けつけ、NHK ニュースでも報道されました。以来、事務局には連日、怒濤のように署名が押し寄せ、わずか 42 日で 44 万 4 千人余の署名が集まったというわけです。

多田先生は、いったん静養に専念されましたが、厚生労働省の出した「疑義解

釈」が「あまりにも患者を馬鹿にしている」とお怒りになり、猛烈な言論活動を再開されました。文藝春秋誌への寄稿は既に話題になりましたが、今後まだまだ出ますのでご期待下さい。

もう一つ。署名活動序盤で、全国から多くの激励の声が集まりました。私は、主張してきたことが正しかったと確信しました。そして多田先生に「風」というメールを書きました。ところがその後、ブログやメール等で思わぬパッシングに会い、今度は「逆風」というメールで、辛い気持ちを伝えました。以下は、その返事です。

「道免先生への個人攻撃は、私はある程度予想していました。気にしないでいいのです。こういう批判は必ずつき物です。やがてわかる日が来る。そのとき笑えばいい。批判の無い運動は、力も無い。ぐっと受け止めて、抵抗を力にすればいいのです。多田富雄」

訥々とした文体の中に、底知れぬ精神力を感じました。多田富雄先生という巨人との出会いは、運命的なものだと思いました。リハビリ専門医よりも、リハビリ医療の本質を、魂の底から語って下さいます。

今後も多田先生とともに、日本のリハビリ医療を動かしていきたいと思えます。



目次

- ㊦ 1 ... 診療報酬改定 リハビリ制限撤廃運動
- ㊦ 2 ... 第 1 回 CRASEED フォーラム報告
- ㊦ 2 ... お仕事紹介：上肢訓練ロボ
- ㊦ 3-4 ... 総会報告
- ㊦ 5 ... 病院紹介：兵庫医科大学病院篠山病院
- ㊦ 5 ... リハ職種紹介：医療ソーシャルワーカー (MSW)
- ㊦ 6 ... 講演会・講習会案内、書籍紹介、会員募集

第1回 CRASEED フォーラム報告 「高次脳機能障害の理解」

去る7月9日(日)午後1時より、神戸国際会館9階大会場にて当NPO初のフォーラムが開催されました。今回は、高次脳機能障害を専門とする臨床・研究・教育の第一線で活躍中の中島恵子先生(九州ルーテル学院大学大学院教授)を講師にお迎えいたしました。

フォーラムは、はじめに当NPO代表理事 道免和久による講演「脳機能早わかり」、続いて中島恵子先生のご講演「高次脳機能障害の理解」という流れで行われました。道免理事からは、脳の各部位が担う機能の概略と代表的な高次脳機能障害である「左半側空間無視」「失行」「視覚失認」「記憶障害」などが起こるメカニズムが説明されました。また前頭葉の役割や脳の可塑性に関する話題も、市民の方には興味深いものであったと思います。

そして中島先生のご講演。先生は障害を持った方に“やる気を起こさ

せる神経回路”である脳内のA-10回路を汽車(train)に例えてユーモラスに説明するなど、認知リハの開始にあたって工夫をされているとか。思わず先生独特の治療展開に引き込まれていく対象者の方の姿を想像してしまいました(*^_^*)。そして、認知機能の分析と治療対象・目標の決定が、適切な介入にとって重要であると強調されました。先生によると、治療介入には①障害された機能への直接的介入、②健常な機能を介する代償的介入、③外的補助手段を利用する補助的介入、④日常生活での適応行動を増やす行動的介入、の4つがあります。認知リハはこれらを対象者の障害特性に応じて選択・調整しながら行われるもので、十分な知識と技術が必要であるということでした。そして駆け足でしたが、課題の一部や先生の治療を受けた対象者の方のビデオもご紹介いた



できました。中島先生のエネルギッシュな雰囲気会場は新鮮な驚きに包まれ、また温かみあふれるイラスト満載のスライドは「高次脳機能障害」というテーマの硬さを忘れさせてくださいました。

初めてのフォーラムには、医師・作業療法士などの専門職、高次脳機能障害の当事者のご家族またその関係者など100名を超える方々のご参加をいただきました。今後も一般市民の皆様に向けた有意義なフォーラムを計画して参ります。次回をどうぞお楽しみに!
(佐野恭子)

メンバーのお仕事紹介



上肢訓練ロボ

上肢機能訓練ロボを脳卒中片麻痺患者さんの上肢訓練に応用する研究を2003年から約2年間にわたり行いました。本装置は独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の支援により、大阪大学工学部と旭化成により開発されたものであり、上肢を3次元空間上で自動的・他動的に運動させることができるものです。これには液晶ディスプレイによる視覚フィードバック装置と、アームを通じたフォースフィードバック機能が備わっております。これらの機能によりバーチャルリアリティを被験者に与えることができます。バーチャルリアリティを応用したゲーム的課題を遂行することにより自主訓練を長時間続けることができるようになっていきます。

訓練の対象としたのは片麻痺による上肢機能障害が残存している6名の患者さんで、発症後半年以上経過し、今

後改善の見込みはないとされている状態でした。これらの患者さんに、1回40分、1週間に3回の訓練を6週間施行しました。6週間の訓練期間の前と後で上肢機能の評価をしたところ、上肢近位部の機能の有意な改善がみられました。さらに、患者さんからも訓練する前よりも麻痺した上肢を使う頻度が増えた、訓練がゲームのようで楽しい、といった感想を頂きました。

本装置による訓練で、慢性期においても一定期間の訓練を行うことで、麻痺の改善が起こり得ることが示唆されたと考えております。また、上肢を使用する機会が増え、患者さんの満足度も高いものがありました。本装置による訓練は主に上肢近位部の機能改善を目的としたものであります。手指を使用する訓練を多く含むCI療法(CRASEEDのメンバーにより研究が進行中です)との組み合わせによりさら



に効果的な上肢機能訓練ができるのではないかと考えております。

現在保険診療で提供されるリハビリテーションには1日あたりの上限時間および期間の制限があります。今後は長時間の自主訓練が可能な装置として、需要が高まるものと予想されます。今後も実用化をめざして研究を継続していきたいと考えております。

本研究については2004年日本リハビリテーション医学会学術集会、2005年日本ロボット学会学術講演会にて報告を行いました。論文としては「リハビリテーション医学」第43巻6号に掲載されていますので、ご覧下さい。
(宮越浩一)

**病院
紹介**

兵庫医科大学篠山病院



当院は、兵庫県中東部に位置し、人口47,893人（平成13年10月末現在）、総面積377.61km²と県下市町第2位の広さを有す、丹波篠山の黒豆で有名な篠山市内にある病院です。平成9年10月に国立篠山病院の経営移譲を受け開設し、21世紀における超高齢化社会を見据え、平成11年にはリハビリテーションセンター並びにささやま老人保健施設を設置し、3施設による兵庫医科大学の篠山地域における医療と地域リハビリテーション実践の場としての働きを担っています。

病床は200床（一般病床150床、療養型50床）で、リハビリ科は療養型病床のうちの36床を定床としています。当院の外来患者数は407.6人、入院患者数は135.9人、平均在院日数は19.9日です（平成15年平均）。

リハビリテーション科では、一日患者数は55.0人です。スタッフは、医師3名、理学療法士12人、作業療法士7人、言語聴覚士4人の計26人と、患者数を考えると本院に勝るとも劣らない充実ぶりと思われれます。また、5

月よりCRASEED代表であり兵庫医科大学リハビリテーション医学教室の教授である道免先生が週1回の非常勤となり、貴重なアドバイスを頂ける環境となりました。

対象疾患は、脳血管疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、難病等で、また、この地域の特性として慢性期疾患が多いといえます。入院患者では、療養型病床ということもあり、脳卒中でも急性期、回復期を過ぎた方や、重症脊髄損傷、廃用症候群といった疾患が多く、その他、在宅で機能低下が認められた方にリハビリテーション目的で2～3週間の集中リハを行うこともあります。

当院では、（介護保険の対象となる）すべての患者さんが、介護保険の本来の主旨である、介護保険を利用する前に十分な（医療的）リハビリ治療を受けるべきという『リハビリ前置主義』の治療を受けて頂けます。医療的にリハビリ治療を行えばまだまだ改善でき、介護度も軽度になる方が沢山いらっしゃいます。その上で残った後遺障害に対して、介護保険を利用することが、患者さんにもご家族にも幸せなこ

とですし、もちろん介護保険料も低く抑えられるという効果があります。また、当院の特徴としては、ささやま老人保健施設が併設されているので、すぐにご自宅に退院できない方は入所することも可能であることは勿論、ショートステイやデイケアもあります。しかも、デイケアでの訓練は、人事交流のある療法士が行っているため、外来リハビリからデイケアへの移行もスムーズです。リハビリテーションセンターは天井が高く、スペースにゆとりがあり、開放感溢れる中庭から差し込む明るい陽光の下で患者さんは生き生きと訓練を行うことができます。また、人数は少ないですが、当科スタッフによる訪問リハビリも行っています。

以上のように、病院およびリハビリ専門医と専門スタッフによる治療→老人保健施設→訪問リハビリの流れが揃った医療施設は、関西地方でも稀少と言えます。ちなみに、篠山市の高齢化率は25%を超えており、約10年後の神戸の状況に相当するといわれています。つまり、現在の篠山の地域医療こそが、先端医療であるということが言えると思います。当院では引き続き、先端医療を行っているというつもりで地域リハ医療を進めていきます。

（奥野太嗣）



**リハビリテーション
関連職種紹介**



3

..... 医療ソーシャルワーカー（MSW）

日本における医療ソーシャルワーカー（MSW）第1号の浅賀ふささんは、アメリカで医療ソーシャルワーカーの勉強をし、聖路加国際病院に正式に採用されました。当時（昭和初期）の日本に蔓延していた結核などの感染症が、患者さんの劣悪な生活に問題があると医師を説得し、生活改善のために自宅を訪問して、じめじめした長屋に大家族が同居し、食べるものもろくない生活の実態を報告しました。さま

ざまな病気の治療には、生活のどこに問題があるのかをアセスメントして生活を改善する必要があることを、浅賀ふささんの活動を通して理解した医師たちが、病院に医療ソーシャルワーカーを積極的に導入するようになりました。2000年から始まった高齢障害者のための《介護保険と回復期リハビリ病棟》制度の導入で、障害を持っていても自宅で生活することが求められるようになり、日本中の回復期リハビリ病院が、生活のアセスメントをして問題解決を援助する医療ソーシャルワーカーを求めています。

今、脳卒中などのような人生の中



途で突然障害を持った人が、どのような制度やサービスと地域の社会資源等をマネジメントして自宅での生活が可能となるのかを、ともにその混乱に寄り添い、考え、援助する医療ソーシャルワーカーが必要とされています。

（高橋玖美子）

総会報告

平成 18 年 5 月 13 日、大阪市のアプローズタワー会議室において第 1 回 CRASEED 総会が開催されました。社員数 71 名に対し、46 名の出席（委任状 26 名）がありました。

平成 17 年度事業報告、次年度事業計画、予算、理事の選任などが報告され、いずれも満場一致で承認されました。議事録は以下の通りです。



特定非営利活動法人リハビリテーション医療推進機構 CRASEED 総会議事録

日時：平成 18 年 5 月 13 日（土）

13:30～14:10

場所：アプローズタワー 13 階貸会議室
1、2、3 号室（大阪市北区茶屋町 19-19）
TEL：06-6377-5577

出席状況：社員総数 71 名、有効出席数 46 名（うち委任状 26 名）

議決権総数 71 個、有効議決数 46 個（うち委任状 26 個）

定刻、当法人定款の規定により司会松本憲二は総会の開会を宣言し、社員総数、議決権総数、有効出席数及び有効議決権について報告を行い、本総会は適法に成立する旨を宣言し、直ちに議案の審議に入った。

議事

議長を選出：定款第 23 条に基づき、代表理事道免和久より議長に宮越浩一理事が指名された。

議事録署名人の選出：議長より、本日出席の新井秀宜氏、堀尾純子氏の 2 名を指名したところ、満場一致異議なく承認された。

第 1 号議案：平成 17 年度事業報告書の件
川上寿一理事より、平成 17 年度の事業報告がされ、満場異議なく承認された。

第 2 号議案：平成 17 年度収支決算報告
木村幸恵理事より、平成 17 年度の収支決算報告、高橋玖美子監事から監査報告がされ、満場異議なく承認された。

第 3 号議案：平成 18 年度事業計画
道免和久代表理事より、平成 18 年度事業計画の報告がされ、満場異議なく承認された。

第 4 号議案：平成 18 年度予算
木村幸恵理事より、平成 18 年度予算が報告され、満場異議なく承認された。

第 5 号議案：理事再任選任報告
道免和久代表理事より、役員再任、辞任、新副理事について提案があり、それぞれ次の者を選出し、満場一致異議なく承認された。

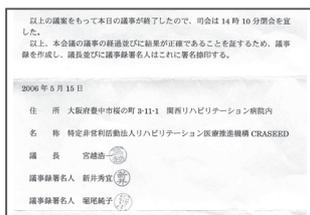
代表理事：道免和久
副代表理事：松本憲二

理事：高橋紀代、小山哲男、川上寿一、眞淵 敏、宮越浩一、木村幸恵、佐野恭子

監事：高橋玖美子

以上の議案をもって本日の議事が終了したので、司会は 14 時 10 分閉会を宣した。

以上、本会議の議事の経過並びに結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議長並びに議事録署名人はこれに署名捺印する。



平成 17 年度事業報告書

特定非営利活動法人リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

I 事業期間：平成 17 年 7 月 20 日～平成 18 年 3 月 31 日

II 事業の成果

今年度の本法人の事業は、すべての計画した事業はできなかったものの、リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する情報の収集及び提供を説明会として年数回実施でき、他科に従事している医療関係者及び一般市民にもリハビリテーション医療への深い理解を与えることができた。リハビリテーション医療に関するデータ等の情報提供を年数回実施することにより、リハビリテーション医療の発展に貢献できた。会報誌も年 4 回発行の予定だったが、設立年度と言うこともあり、年 1 回の発行に留まったが、内容も充実したものととなり、幅広く配布でき、リハビリテーション医療の情報提供の一役を担うことができた。

リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する教育研修は、年 3 回行った。どちらも盛況で、リハビリテーション医療の普及に大きく貢献できた。これらの事業は次年度以降もテーマ等を替えて、より充実させて継続していきたい。

III 事業の実施状況

(1) 特定非営利活動に係る事業

【事業名】①リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する情報の収集及び提供

1
【内容】リハビリ科以外の他科に従事しているが、リハビリテーション医療に興味のある医療従事者等を対象に説明会を開催し、リハビリテーション医療について情報提供を行った。
【実施場所】大阪市内ウォンズシノワ
【実施日時】平成 17 年 10 月 29 日、11 月 11 日、12 月 3 日
【事業の対象者】リハビリテーション医療に興味のある医療従事者：約 60 名
【収入】なし
【支出】752,637 円（説明会費 10 月 29 日：225,550 円、11 月 11 日：13,950 円、12 月 3 日：209,000 円、事務人件費その他 304,137 円）

2
【内容】リハビリテーション医療の発展の礎となる研究につなげるため、リハビリテーション医療を専門とする講師に平均月 2～3 回の頻度で依頼し、リハビリテーション医療に関するデータ等の情報提供及び研究相談を実施した（気軽に寄ってもらえるよう出入り自由なオープンハウス形式で行う）。
【実施場所】兵庫県西宮市武庫川町 1 番 1 号 兵庫医科大学病院リハビリテ

平成 17 年度 特定非営利活動に係る事業会計 収支決算書

平成 17 年 7 月 20 日から平成 18 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

(単位：円)

科 目	金 額	
Ⅰ 収入の部		
1 会費収入		
(1) 正会員会費収入	280,000	
(2) 専門会員会費収入	1,270,000	
(3) 賛助会員会費収入	4,400,000	5,950,000
2 事業収入		
(1) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する情報の収集及び提供	0	
(2) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する教育研修	4,068,400	4,068,400
3 寄付金等収入		
(1) 寄附金収入	3,600,000	3,600,000
4 雑収入		
(1) 雑収入	115,125	
(2) 預金利息収入	28	115,153
収入合計		13,733,553
Ⅱ 支出の部		
1 事業費		
(1) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する情報の収集及び提供	1,387,012	
(2) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する教育研修	2,344,219	3,731,232
2 管理費		
役員報酬	0	
給料手当	1,258,064	
旅費交通費	244,180	
通信費	10,300	
募集費	428,300	
広告宣伝費	211,956	
雑費	115,985	
会議費	168,932	
事務管理費	5,032	
事務用品消耗品費	229,697	
研修費	4,193	
租税公課	4,300	
設備購入費	1,399	
雑費	52,187	
支払手数料	144,970	2,888,056
3 その他の支出		
他の繰越金支出	84,900	84,900
支出合計		6,704,248
当期収支差額		7,029,305
設立時繰越金高		0
次期繰越収支差額		7,029,305
Ⅲ (正味財産増減の部)		
Ⅲ 正味財産増加の部		
1 監査増額		
当期収支差額	7,029,305	
高橋増額	84,900	7,114,205
2 負債減少額		
増加額合計		7,114,205
Ⅳ 正味財産減少の部		
1 資産減少額		
2 負債増加額		
減少額合計		0
当期正味財産増加額		7,114,205
設立時正味財産額		0
当期正味財産合計		7,114,205

監査報告

平成 17 年度 収支決算報告

上記の収支決算報告について詳細に監査の結果、適正であることを認めます。

平成 18 年 4 月 26 日

特定非営利活動法人リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

監事 高橋 玖美子

シヨン部医局
【実施日時】月 2～3 回の割合、今年度は 22 回実施
【事業の対象者】リハビリテーション医療従事者：のべ約 60 名
【収入】なし
【支出】406,477 円（諸謝金 242,222 円、事務人件費その他 164,255 円）

3
【内容】情報収集のために、意識障害者の支援を考える講演会の高次脳機能障害に関する講演録を購入し、当法人事務所内で視聴及び放映を行った。
【実施場所】当法人事務所内
【実施日時】通年
【事業の対象者】リハビリテーション医療従事者及び一般市民：約 100 名
【収入】なし
【支出】27,034 円（講演録 15,000 円、送料 1,000 円、振込手数料 110 円、事務人件費その他 10,924 円）

4
【内容】会報誌を作成し、講演会などに参加した人に配布し、リハビリテーション医療について啓蒙活動を行った。
【実施場所】当法人事務所内
【実施日時】通年
【事業の対象者】リハビリテーション医療従事者及び一般市民：約 1,000 名
【収入】なし

【支出】200,894円（広報誌作成代119,504円、振り込み手数料210円、事務人件費その他81,180円）

【事業名】②リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する教育研修

1
【内容】脳卒中機能評価研修会：組織体としての医療機関の機能について、一層の充実・向上を図るためには第三者評価を導入する必要があるため、本年度は、脳卒中医療に関する評価を担当する人材育成のための研修会を実施した。

【実施場所】大阪府枚方市星丘4丁目8番1号 星ヶ丘年金病院

【実施日時】平成17年11月20日
【事業の対象者】リハビリテーション医療従事者：約30名

【収入】400,000円（研修会受講料）
【支出】186,456円（講師講演料100,000円、源泉徴収11,110円、事務人件費その他75,346円）

2
【内容】急性期から回復期へ脳卒中ナーシングセミナー：急性期や回復期リハビリ医療での経験が豊富な多職種の講師陣による、脳卒中リハビリテーションナーシングの理論と初歩についての実践的な講義と実演講習を実施した。

【実施場所】当法人事務所
【実施日時】平成17年7月23日、24日

【事業の対象者】リハビリテーション医療従事者：94名
【収入】1,410,000円（受講料）

【支出】1,046,688円（諸謝金422,218円、旅費交通費27,280円、人件費37,500円、参加者昼食代124,000円、事務消耗品費11,309円、雑費1,420円、事務人件費その他422,961円）

3
【内容】摂食・嚥下リハビリテーション講演会：摂食・嚥下障害リハビリテーションの専門家による、摂食・嚥下障害のリハビリテーションに関する実践的な講義。

【実施場所】兵庫県西宮市武庫川町1番1号 兵庫医科大学平成記念会館

【実施日時】平成18年2月5日 午後1時～午後5時
【実施の対象者】リハビリテーション医療従事者

【参加人数】582名
【収入】2,258,400円（受講料）
【支出】1,111,066円（諸謝金222,221円、旅費交通費94,760円、事務人件費その他528,976円、事務消耗品11,488円、資料作成代176,421円、通信費16,620円、雑費5,460円、打合せ費55,120円）

【事業名】③その他この法人の目的を達成するための事業：本年度無し
(2) その他の事業：本年度事業無し

IV 社員総会の開催状況

【臨時社員総会】平成17年7月24日 事務所移転について承認された。

V 理事会その他の役員会の開催状況

【理事会】
第1回：平成17年7月24日 事務所移転、セミナー総括、今年度事業計画、法人パンフレット、ロゴ、ホームページ、広報誌、会員募集など、

今後に向けて話し合われた。
第2回：平成17年10月29日 会員現況、平成18年2月5日に行われるセミナー、来年度事業計画（セミナー、フォーラム等）

第3回：平成18年2月5日 会員現況、来年度事業計画策定など、主に来年度への活動計画



平成18年度事業計画書

特定非営利活動法人リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

I 事業期間：平成18年4月1日～平成19年3月31日

II 事業の実施方針
今年度の本法人の事業予定は昨年と引き続き行う事業もあるが、更に回数を増やし、中身の充実を図っていききたい。また教育研修に関しては、新たな内容で、より深いものにしていきたい。

III 事業の実施状況
1) 特定非営利活動に係る事業

(1) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する情報の収集及び提供
1 説明会開催

【内容】他科に従事しているが、リハビリテーション医療に興味のある医療従事者等を対象に説明会を開催し、リハビリテーション医療について情報提供。

【実施場所】大阪市内
【実施日時】年4回予定

【事業の対象者】リハビリテーション医療に興味のある医療従事者を中心に一般市民
【支出】800,000円（説明会費平均200,000円）

2 研究相談
【内容】講師に平均月2、3回の頻度で来て頂き、リハビリテーション医療に関するデータ等の情報提供等、オープンハウス形式で研究相談を実施。研究相談により、更なるリハビリテーション医療の発展へと繋がる研究に結びつける。

【実施場所】兵庫県西宮市武庫川町1番1号 兵庫医科大学病院リハビリテーション部医局

【実施日時】月2～3回の割合。今年度は36回実施予定。
【事業の対象者】リハビリテーション医療従事者を中心に。

【支出】400,000円（諸謝金）

3 会報誌の発行
【内容】会報誌を年4回発行し、講演会などに参加した人に配布

【事業の対象者】リハビリテーション医療に携わる人を中心に一般市民
【支出】500,000円（広報誌作成代480,000円、送料20,000円）

(2) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する教育研修

①脳卒中機能評価研修会及び高次脳機能障害講演会
【内容】医療従事者対象に、脳卒中機能評価に関して講演を行う。

【実施場所】兵庫県西宮市武庫川町1番1号 兵庫医科大学平成記念会館

【実施日時】平成19年2月4日
【参加人数】400名及び300名

【収入】3,500,000円（脳卒中機能評価

平成18年度 特定非営利活動に係る事業会計予算書
平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
特定非営利活動法人 リハビリテーション医療推進機構 CRASEED (単位:円)

科目	金額	金額
資金収支の部		
I 収入の部		
1 会費収入		3,600,000
(1) 正会員会費収入	300,000	
(2) 専門会員会費収入	1,800,000	
(3) 賛助会員会費収入	1,500,000	
2 事業収入		4,500,000
(1) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する情報の収集及び提供	0	
(2) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する教育研修	4,500,000	
3 寄付金等収入		0
(1) 寄附金収入		0
4 雑収入		0
(1) 雑収入		0
(2) 預金利息収入		0
繰り越し	7,000,000	15,100,000
収入合計		
II 支出の部		
1 事業費		4,970,000
(1) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する情報の収集及び提供	1,700,000	
(2) リハビリテーション医療及びそれに係わる人材等に関する教育研修	1,300,000	
(3) その他この法人の目的を達成するための事業	1,970,000	
2 管理費		7,877,000
役員報酬	0	
給料手当	5,760,000	
旅費交通費	150,000	
通信費	20,000	
雑費	0	
広告宣伝費	500,000	
接待交際費	120,000	
会議費	200,000	
事務用消耗品費	400,000	
研修費	6,000	
電気代	1,000	
水道代	120,000	
移動費	450,000	
支払手数料	130,000	
3 その他の支出		0
商標権購入支出		0
支出合計		12,847,000
当期収支差額		2,253,000
設立時資金有高		0
次期繰越収支差額		2,253,000
正味財産増減の部		
III 正味財産増加の部		
1 資産増加額		2,253,000
当期収支差額	2,253,000	
前期繰越増加額	0	
2 負債減少額		0
増加額合計		2,253,000
IV 正味財産減少の部		
1 資産減少額		0
2 負債増加額		0
減少額合計		0
当期正味財産増加額		2,253,000
設立時正味財産額		0
当期正味財産合計		2,253,000

研修会 2,000,000円、高次脳機能障害講演会 1,500,000円)

【支出】700,000円
②総論セミナー

【内容】急性期や回復期リハビリ医療での経験が豊富な多職種の講師陣による、ナーシングの理論と初歩についての実践的な講義と実演講習。

【実施場所】大阪府または兵庫県内
【実施日時】平成18年9月

【事業の対象者】リハビリテーション医療従事者

【参加人数】100人
【収入】1,000,000円

【支出】600,000円
(3) その他この法人の目的を達成するための事業

① CRASEED フォーラム
【内容】高次脳機能障害について、講演者を招き、無料で一般市民に公開講座を実施

【実施日時】平成18年7月9日午後1時～

【実施場所】神戸国際会館
【事業の対象者】一般市民

【支出】470,000円（会場費110,000円、広報代160,000円、講師諸謝金など200,000円）

②署名運動
【内容】リハビリ診療報酬改定を考える会として、世間の賛同を集め、よりよいリハビリ医療を行っていけるよう実施

【実施日時】平成18年5月14日 午前10時～午後4時

【実施場所】大阪北区梅田
【事業の対象者】一般市民

【支出】1,500,000円（資料印刷代及び郵送料、街頭署名に必要な備品レンタル代）

高次脳機能障害のリハビリテーション

本田哲三、高橋玖美子(他) 編
真興交易医書出版部
ISBN 4-88003-774-5
2006年6月発行
198頁、4,410円(税込)

BOOK

高次脳機能障害は、多くの医師にとって、存在は知ることのどのように対応したらよいかわからずに放置されていることが多い疾患と言えるであろう。外傷後の脳損傷による高次脳機能障害は大きな社会問題の一つでもある。

私は、卒後6年間内科医として勤務し、今年からリハビリテーションの研修をはじめ、初めて高次脳機能障害をもつケースに取り組むこととなった。高次脳機能障害を学ぶにあたり、成書を開くも、難解な単語の羅列は症状のイメージを浮かべることさえできず、どこから手をつけてよいのか途方



にくれていた。そんな折に手にしたのが本書である。

本書では、高次脳機能障害のリハビリテーションの発展の経緯から始まり、疾患の概念、原因・症状、各職種による評価法、社会復帰へのアプ

ローチの方法などが簡潔明解に記されている。介入事例では、診断から始まり問題点への対応にいたるまでの過程が提示されている。10症例それぞれのかかわり方、問題点への取り組みは大変参考になった。実際、担当した患者さんにも応用させていただいた。

「見えない障害」を克服していくためには、患者さんの人生に寄り添い、共に考えていく姿勢が不可欠である。そんな暖かさが伝わってくる一冊である。(當山まゆみ)

会員募集のご案内

CRASEEDでは、随時、会員を募集しています！ 治療効果が高い医療としてのリハビリ(Medical Rehabilitation)についての認識をとともに深め、全国に広める活動にあなたも参加しませんか？ また、リハビリ医療に携わっている専門職の方で、もっとリハビリを勉強し、日常業務の質を向上できたらと思っている方も、一緒に頑張ってみませんか？ CRASEED会員の中には、リハビリ科医だけでなく、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師などさまざまな専門家がおられます。CRASEEDに参加すれば、きっと専門的知識の勉強法を理解でき、具体的な疑問が解消されるだけでなく、あなたの専門性をより高められると思います。(木村幸恵)

《連絡先》

〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1
関西リハビリテーション病院内
TEL 06-6857-9640 FAX 06-6857-9641
Mail: office@craseed.org



CRASEEDでは、下記の3つをメインにリハビリの普及啓蒙活動を行っています。皆様はもちろん、皆様のお近くでリハビリ医療にご興味のある方にも、是非ご参加くださるよう、声をおかけください。(趣旨に賛同される一般市民の方も参加できます。)

① リハビリ医療の普及啓蒙

CRASEED ホームページ、会員向け会報公開フォーラム、電話相談

② 専門的知識の普及とレベルアップ

医療従事者対象セミナー(入門～応用コース、理論～実践コース)、多施設共同研究、その他の教育研修事業

③ リハビリ医療関連情報の提供

CRASEEDのノウハウを駆使した情報発信(リハビリパンフレット、カルテシステム)、各種情報とのリンク

種別	年会費	特典等
正会員	10,000円	CRASEED セミナー参加費の20%割引 会報無料購読 会員専用メーリングリスト(CRASEED Lounge)での各会員との情報交換
専門会員 (医師対象)	60,000円	関西、関東、両地域の関連施設での研修 CRASEED セミナー、研修会などの無料受講 専門会員用メーリングリストによる最新情報の共有
賛助会員 (法人、病院、 経営者など)	一口 100,000円	会員専用メーリングリスト(CRASEED Lounge)への登録 病院・法人職員のCRASEED セミナー参加費10%割引

第1回高次脳機能障害講演会

【日時】2007年2月4日(日)

午前9時～12時30分

【会場】兵庫医科大学平成記念会館
(阪神本線武庫川駅)

【内容】高次脳機能障害は、脳卒中や交通事故による脳損傷が原因となって起こる障害です。外見的に分かりづらくその重大性は周囲からなかなか理解されにくいのですが、高次脳機能障害が重度になると、以前と同じ社会生活を営んでいくことは非常に困難になります。今回は、医師と作業療法士の解説を基に、高次脳機能障害への理解を深めていただきたいと思います。

【受講料】5,000円(午後に行われますADL評価法FIM講習会と合わせてご出席の方は、昼食を含め合計9,000円)

【申込方法、他】ADL評価法FIM講習会と同じ

ADL評価法FIM講習会

【日時】2007年2月4日(日)

午後2時～6時

【会場】兵庫医科大学平成記念会館
(阪神本線武庫川駅)

【内容】FIM(機能的自立度評価法)ver.3.0の評価基準:具体例をわかりやすく解説いたします。今回は初心者を対象に設定しました。初めてFIMを勉強される方が対象です。FIM総論、運動項目、認知項目に分けて、丁寧にわかりやすく解説いたします。

【申込方法】1人1枚、往復葉書に、ご希望コース、お名前、所属、職種、連絡先住所、日中連絡が可能な電話番号をご記入のうえ、下記にお送り下さい。追って、参加可否、受講料振込先などご案内させていただきます。受講料の振込みをもちまして、お申し込みを受理いたします。また、受講料は返金いたしかねますので、ご了承下さい。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

コース:①高次脳機能障害講演会のみ、
②ADL評価法FIM講習会のみ、③高次脳機能障害講演会及びADL評価法FIM講習会

【参加定員】600名

【受講料】5,000円(午前中に行われる高次脳機能障害講演会と合わせてご出席の方は、昼食を含め合計9,000円)

【申込開始】2006年12月1日

【申込締切】定員になり次第締切

【主催】兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

【共催】特定非営利活動法人リハビリテーション医療推進機構 CRASEED

【代表】道免和久

【事務局】兵庫医科大学リハビリテーション医学教室(木村、掛井、金子)

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1

TEL:0798-45-6881(直通)

FAX:0798-65-6948

E-mail:office@craseed.org